

平成28年度地域懇談会（南地域）

平成28年11月26日（土）

午前10時～午前11時45分

健康文化センター 多目的室

1 課題

「大口町消防団の現状と団員確保」について

2 対象地域

南小学校区（秋田、豊田、大屋敷）

3 参加者

地域（46名）

大口町

町長 鈴木雅博、副町長 大森滋、

地域協働部長兼町民安全課長 鶴飼嗣孝、岩崎課長補佐、兼松主査、

畑田主任、大胡田主事補

4 懇談会進行

総務部長兼秘書広報課長 社本寛

5 司会進行

秘書広報課 渡辺課長補佐

6 状況

町民安全課 兼松主査よりテーマについて説明を行い、その後懇談会を実施。
状況は以下のとおりです。

（町長 鈴木雅博 挨拶）

今回は、『大口町消防団の現状と団員確保』をテーマに開催させていただきました。

さて、皆さん、もし会社等で火災が起こった場合、消防団の皆さんは何処から入ったら現場にたどりつけるのか。会社の中がどうなっているのか分からないし、水をかけることで、更に被害が広がるという心配もあります。

3週間程前に町内の工場で火災が発生しました。町外に住んでおられる社員の方に連絡をとったところ、その方は自社が火事になっていることを知りませんでした。このように、火災が起きても社員の方は知らないということが考えられます。これが、本当の火事場の現状でないかと考えます。

火を消すという行為は必要であります、やっていいことと、いけないことがあります。会社が持っている色々な事情について判断するためには、今後、企業の方にも事業に参加いただき、団員になっていただくなどすることを考えなければならないと思います。

昼間の火事の時はどうか。23,000人の町で、昼間、会社にお勤めで大口町に入って見える方は15,000人程おられ、逆に大口町から外に出られる方は1万人程おられます。昼間と夜は全く逆転してしまう、そこがポイントだと思います。そうした状況から、今後、町の中あり方、何か災害が起こった時にどうしたらいいかということ、皆様と共に考えながら進めていかないと対処できないと考えております。

今年地震が各地で発生し、津波も起きています。この東海地方に、いつ起こるか分からないものに対する対応ではありますが、役所の職員だけで考える問題としてではなく、地域の皆様と一緒に考えて、全てが解決できないかもしれませんが、皆さんの命や財産を守るためにどうしたらいいかということが、今後、大きな課題となってくると考えます。

今回、地域懇談会のテーマとした、消防団という組織を切り口として、皆様のご意見を伺います。以前、消防団のOBの方に、「火災が起こった時、できることは手伝うよ」と言っていただいたことがあります。ただ、何をしたらいいかわからないという部分があるかもしれないという、こうしたことも含め、いろんな意味で地域が連携をし話し合いをしながら、一つの組織の中で、また地域のなかでどう動くのか、皆様方にもご検討いただきたいと思いますので、忌憚のないご意見をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

○「地域懇談会」の趣旨及びテーマについて説明（副町長 大森滋）

11月19日、北地域自治組織で防災訓練が行われました。北小学校で行われ、私も参加させていただきましたが、その中で、講師が「NPO法人 神戸の絆 2005」の専務理事 金芳外城雄（かねよし ときお）さんによる講演があり、災害時の自立共助が77%という話がありました。これは、地域住民の助け合いが命を救ったということです。

被災者164,000人中、自力で脱出できた人が129,000人、これは78%、救助を受けた方が35,000人おられましたが、警察・消防・自衛隊が救出した人が7,900人で23%、救助を受けた中の残りの27,100人は家族や消防団、近隣の人が救出したということです。自立共助が77%というのは、自力脱出が

78%、消防団を含めた地域の方が協力して助けだした方が77%になるということで、警察や自衛隊が出動する前に地域の身近な方、或は消防団の救助活動によって多くの命を救っているということがいえるわけであります。

大口町の場合、将来、南海トラフ大地震が想定されておりますが、大口町の想定震度は6弱～5強が想定されています。

これはどのくらいかというと、10月21日、鳥取県中部で地震が起きました。その中で、倉吉市で被害者が2,000人、隣の北栄町では避難者が140人というような大きな地震でしたが、ここが震度6～5強と、まさに大口町の南海トラフでの想定震度と同様となっております。海溝型の地震は被害が広くなるといわれているので、被災地は孤立を深め、さらに深刻な状況となることが想定されます。

そうした中で、消防団の団員確保がむづかしい状況となっております。昭和20年代、30年代は農業が中心だったため、生活パターンや働き方が皆、均一でありましたが、現在は勤め先も勤務時間もバラバラという中で、消防団の活動がやりにくくなっていると感じています。

私は以前から、消防団は地域の保険とか共済と捉えています。そうした力を社会・経済の状況の変化の中で、確保ができなくなっています。そうした事を前提に、皆様方からご意見をいただき、消防団団員の確保、或は消防団の活動のあり方について行政にご示唆をいただきたいと考えておりますので、よろしく願います。

○ テーマについて説明（町民安全課 兼松主査）

○ 意見交換

（座長：総務部長 社本寛）

今回は、消防団ということでテーマを設定させていただきましたが、普段から仕事をしていて「消防団は役場の仕事でしょ」とよく言われます。しかし、先程、副町長も申しましたように、地元でみんなが力を合わせてやっていくという気持ちがないと、なかなか行政だけではやりきれません。団員確保ということもありますが、本日は消防団について意見を交換しながら知っていただければと思っております。

それでは、最初に団員を取りまとめる立場から、消防団長さん、願います。

（消防団長）

実情は先程、町民安全課から説明がありましたように、団員確保が一番の課題となっています。年齢が30代前半でほとんど終わってしまっています。

以前は、各区によって異なりますが、3年、5年という具合で順に交代し年齢が続いていましたが、近年は団員年数が長くなり真ん中が抜けた状況となり、年配の方が辞めた時に団員を探しにくくなっています。是非もう一度、地域の皆さんに掘り起こしをかけていただきたいと思います。

また、個人情報がむつかしくなり、何処に誰がいるのか分からないことが辛く、団員確保をむつかしくすることに繋がっていると思います。

(参加者 A)

これから高齢化社会になり、徘徊等で行方知れずということも増えてきます。消防団員に限らず、消防のOBを関係団体として登録し、万が一の時に活動できるようにするのも一つの手法と思います。

限られた消防団だけでは対応できません。自分の家が倒壊した場合、他の人を応援に行けるのかという危機感がないと、消防団員に頼ってしまいます。自分のことは自分達でやるという気持ちを大前提として進めていくとよいと思います。

(座長：総務部長 社本寛)

今の団員に限らずOBも登録して、組織を工夫してみてもどうかというご意見でした。また初動のところは消防署、大規模は相互に協定をしているので、そうした前提で、自分たちのことは自分達でやるという意識をもってやったらどうかというご意見でした。

(地域協働部長 鵜飼嗣孝)

消防団OBの方をお願いするという話については、各地域に出かけたりした際、多くの方から「やってもいいよ」というお話しをよくいただきます。ただ、自分から言うと、責任が出てくるので自分からは言えないが、きっかけさえあればやってもいいとお話しをいただいています。

本日、また、そういったご意見をいただいたので、OBの方にどのような時にどう対応していただくか、今一度、考えていきたいと思っています。

昼間、消防団員が集まらない状況であります。そうした消防団員が現場に来られない状況の中で、ご協力いただけるとありがたいです。

(座長：総務部長 社本寛)

OBの皆さんに入っただくとして、操法など走ったりすることを外していくことは可能でしょうか。

(地域協働部長 鵜飼嗣孝)

実際に、全国をみるとそういう状況があります。

消防団がやっていることは、それなりに体力のある方がやり、それ以外のところ、例えば消防団の仕事として消防署のために水を運ぶ作業、ホースの接続の他、車を止めたり迂回させたりするなどの交通整理があります。消防で火を消していても怒鳴ったり文句を言っていく人があり、それに対応しなくてはなりません。

その他にも、消火の後、再び発火する恐れがあるため留守番をしてくれるのが地域の消防団員であります。昼間は人が少ないため近所の方に頼ることとなります。

今までと同じような行動をしてくださいというのではなく、ある部分をお願いすることができればと考えています。

(参加者B)

基本的なことをお伺いしたいと思いますが、9分団は昭和14年から大口町警防団として組織され、その後、丹羽消防ができたわけですが、団員確保という面から考えてみて、本当に9分団が必要かどうか。これからも9分団を存続していくのか。状況が変わってきている中で、団を少なくして、その一分団について消防活動を出来るものを確保していく方法もあると思いますが、9分団存続についての町の考えはいかがか。

(地域協働部長 鵜飼嗣孝)

9分団に固執する考えはありません。先程、OBの方の参加のお話しもいただきましたが、9分団ありきではないと考えています。

(副町長 大森滋)

かつては大口町の消防団は300人程いました。現在は定数としては107名となっています。団員確保がむづかしい中で組織を見直すという話しであります。明確に検討したことはありませんが、消防車庫も古くなってきており建て替えをと話しも出てきています。

消防の組織を考えただうえで、車庫の整理をしていく必要があるという話しが出ていますが、消防の組織を見直すことを前提として物事を考えるようにしています。

9分団107名を、今の状況の中で最適なのかを考え、行政としては変更もありえるとした認識はもっています。

(参加者C)

1つの案として、小学校区に1分団、合わせて3分団とした数になるが、もう少し規模を大きくする。また、各分団、1分団に、最低、何人が必要か。団の数を減らして大きくし、活動してもらえらる団が必要であると思うので、1分団に、最低、何人が必要と考えているかお伺いしたい。

(町民安全課 兼松主査)

現在、各分団、10名~12名というところではありますが、大口町の場合、小型ポンプ車を扱っています。車両を動かす人、ポンプを運んだり活動するものがあるとして、おおよそ10名~12名が必要としています。

(地域協働部長 鵜飼嗣孝)

1分団に何人かというよりも、車両1台を動かすのに何人いるかから計算して、1分団に1車あるので10名~12名と積算しています。

(座長：総務部長 社本寛)

先程の資料に団員の勤務先がありましたが、団員の数としては多いですが、時間により出られる可能性がある状態が どう確保できるかについては。

(地域協働部長 鵜飼嗣孝)

勤務中に来ていただく場合、現状ですと車両に乗っていただく場合、2人以上で来てもらうよう話しています。1人しか消防車庫に集まらない場合、次の人が来るのを待っているという状況を聞いています。

そういうこともあるので、消防車両9台、全てをふるに動かそうとすると9分団で何人いるということになるので、先程、お話しをいただいたように、ある程度まとめて人数が集まったほうが、車両の稼働状況が良くなる可能性もあります。

(座長：総務部長 社本寛)

ただ今、小学校区で分団を持つというご意見を1つの案としていただきましたが、他にご意見などありましたらお聞かせください。

(参加者C)

先程、2名以上集まらないと出ないという話がありましたが、資料の中の「近年の火災時の出動状況」で、一人とか二人とあるのは、車で出られたのでしょうか。

(地域協働部長 鵜飼嗣孝)

一人の場合は自家用車で来ています。消防車両は出ておりません。
二人揃うと、やっと一台 出ているという状況です。

(参加者A)

中間人口が多いことを考えると、昼間については民間の企業の協力を得て確保する。夜間はどうか考えてみて、出来るだけ多く人員の確保ができるように配慮されたら、消防団の仕事量も減ると思うが。

(地域協働部長 鵜飼嗣孝)

民間企業との協力関係については、例えば市の場合は、市ごとに消防署があるので、消防署は消防団の管理をしています。小牧市の場合、会社ごとに消防をもち、観閲式の時にも参加し消防団と同じような活動をしています。

大口町では、消防という名目で、これまで企業をまわったことはありません。町内企業にお勤めの方で、企業として消防団を作っているとか、話があればやってもいいと思われる方があれば教えていただきたい。

(町長 鈴木雅博)

お尋ねさせていただきますが、東海理化さんに消防車はありますか。

(参加者D)

消防車は保有しておりません。

(町長 鈴木雅博)

あれだけ大きな工場でも所有しておられない。しかし、もし、火災が起きたら、何処から入って火を消すかということを考えていただきたい。

豊田の消防団の方、もし、東海理化にボヤ等が起こったら、何処から入りますか。

(参加者E)

正面玄関から入ります。

(参加者D)

正門には、24時間、警備員が常駐しています。

(町長 鈴木雅博)

それと、現在、女性消防団に活動していただいておりますが、個人的な考えとして、昼間の火事の際に活躍いただけるのが女性消防団だと思います。昼間、女性の方が地域におられることを想定として、男性が昼間、外に出ているときに、家庭を守る、また、地域を守ってくれるのは女性消防団であると思います。

男女同権ということもありますので、女性の活動をサポートするということもありますし、消防団のOBの方を活用するともご発言いただきました。

もう一つ、思っていることは、「消防団」という名前ではどうか検討していただくときではないか。名前を変えて、若い人や女性が注目してくれるような組織にしていかななくてはならないと思うのと、先程のお話しの中にもありましたように、地域を大きな形での組織とすること、そして企業をどう巻き込んでいくか、この3点について皆様にご検討いただければと思います。

(座長：総務部長 社本寛)

町長から3つ程、話しがありましたが、最初に行政区を学校区にしてもいいのではという点について、車両にこだわらず組織的な規模として、ご意見があればいただきたいと思います。

(消防団長)

団としては、一度、学校区で考えたことがあります。行政区では集りが悪かったのが一番の理由です。

問題点は、最近、車両を買い換えたばかりということで費用的な問題もあります。個人的な意見として、団としては、できれば学校区でやっていただいたほうが、まとまりやすいと思っています。ただしこれには、区長さんのご協力をいただかないといけません。

また、現在、南地区には女性啓発団員10名がおります。今後、北、西と出来、女性の啓発団員、或は、消防団員で30名ほど出来たらよいと思っております。

ミドルネームについても考えた事があります。女性啓発団員さんだけ、ミドル

ネームを考えてみてはと言ったことがあります。まだ実現はしていませんが、実現すれば入りやすくなり、周知しやすくなると思っています。

(町長 鈴木雅博)

学校区でいいんですね

(消防団長)

学校区でいいです。私の考えではありますが。

(町長 鈴木雅博)

消防車庫が古くなってきて、建て替えて欲しいという話がある地区から出ています。しかし、その地区は消防団員が一番少ない地区で新しい施設をとのお話してあります。

要求と実際の活動があってない部分もありますが、たとえば、3台、車が揃っている中で、秋田・豊田・大屋敷から人数が集まれば出動ができるし、色々な地域どうしの話もできると思います。

(参加者E)

予防啓発団として活動させていただいています。昨年の全国大会や、操法大会など出させていただき1年の活動としてきましたが、今年に入って新たな活動をしようと考えています。各児童センターを回り、子ども達の予防啓発をしたり、できれば老人ホームにも出掛け活動したいと考えています。

そのために、「火災防災予防カルタ」を作りたいと思っていますが、作るための活動場所がありません。いつも、防災倉庫の2階や、健康文化センターの2階などを使用させてもらっており、活動の拠点とする場所がないことが困っている点です。

それから、町として私達に何が求められているのかがわからない。今は手探りの状態であり、火災予防啓発以外、何をしたらいいか、何を期待されているのかをお聞きしたい。

(座長：総務部長 社本寛)

もう一度、話しを戻しますが、各区でいくのか、学校区でいくのか。1つの案で学校区はどうかというご意見、また団長さんも小学校区でいいと言われました。

消防車両を入れ替えをする際、検討した記憶があります。各区と消防団の関

係がそれぞれ違う状況もあります。そうしたことから学校区にしづらいこともあり、そのまま車両の入れ替えを先行したということです。

この件については、一度、検討課題として事務局でお預かりをして、区長さん方にもご協力いただいて、行政区と消防団、また、現在、自治組織が活動しているの、組織と消防団との関わりを事務局の宿題とさせていただくことでしょうか。

(地域協働部長 鵜飼嗣孝)

昨年、防犯灯では区長さんにご協力をいただきましたが、消防団につきましても、区長さん、地域自治を交えて考えてまいりたいと思います。

今回の地域懇談会で、どんなテーマで開催しようかと検討した際、私たち町民安全課が手を挙げさせていただきましたが、何かを変えていくために、後ろ押しをしていただきたい。今回は、新しく変えていくためのきっかけづくりとしての懇談会と考えているので、それを含め事務局として進めていきたいと思っています。

(参加者F)

一番団員の少ない豊田区としては、今年度、1番大事な時期としてこの1年間、消防活動について色んな形で事業に取り組んでいこうと区会に図ってきました。

実際のところは、人数が減れば減るほど一人の団員の責任も重くなるし、また大きくなる。そういうことを私たちも認識を新たにしながら区会に話しをしてきました。消防団員が一番少ないといった状況の中で過大な負担をかけないよう、出来るだけ軽減ができないか考えてきました。

先程も、小学校区というお話しがありましたので、少しは責任転換できるのかなとも思いましたが、いずれにしても消防の任務として必要なこと、また災害が起これば災害の支援など、いろんな形で各地区の末端にあります団や、あるいは地域自治組織が大きな責任を持つようになってきましたので、そういった視点からも整備していただきたいと思っています。

先般も、要支援の関係で、果たしてこれは小学校区がもったほうがいいのか、或は区がもったほうがいいのか、或は自治組織がもったほうがいいのかという話しがありました。事務局は、皆さんから意見をもらったらいいいと言われたが、例えば南地区が区でやります、中地区が自治組織でやりますとあって、そんなことでやっていけるのかと思います。

こういった点で私が発言したのは、問題については当然、先例もありますし、

どういものが望ましいか、ある程度は一定の示唆をしていただかないと、役員が代わった時にバラバラで固まったものを、また一度ごあさんにして、また1からやり直すことはできません。3つから選んでもらえばいいといわれたが、そういうものではないと思います。

消防団についても、消防団員が少ないところについては、それなりに力を入れてやるべきですし、そういったことについて、生きがいを持ったり、或は環境を整備したりする中で、できるだけ努力はしてみて、その中で現実に必要な消防力、災害時に組織を生かせるようなことを考えてほしい。

なぜかという、視察に出掛けた際、ある方が、議員は7年やっているが消防団員は50年やっていると話された方がいた。そのいう気概を持っていないと実際、出来ないでしょうし、そういう気概を持てるような消防団にすべきであると考えます。

以前、団長さんが、任期が大口では5年～7年位しかないと言っておられたが、どうして、20年・30年ができないのか。そういうところを考えるべきであるし、そういう力がないと、地域で世代間交流が全然ない。だから組織が固まっていけないので、そういう原理をしっかりと考えて欲しい。

(座長：総務部長 社本寛)

以前、小学校区はどうかという話があったときの1つの意見で、区との関係に違いがあるように、資料をみていただくと分かりますが、必ずしも人口が多いところが団員を確保できていて、少ないところが確保できていないというわけではありません。

色々な要素が沢山あるので、学校区にしてしまうと遠くなってしまわないか、責任が軽くなるのではないかとすることも懸念材料としてあったので、いろんな意見を出し合いながら協議をしていくことが大事であると思っています。

もう一点、企業ごとに義務付け等はあると思いますが、企業の中の消防活動について、一般的には消防署にお任せしますという状況なのか、企業の中に消防組織を持っているということなのか、先程、消防車は持っていないが守衛さんがいるという話がありましたが、他にどちらかの会社でこうしているという事例があればお伺いしたいと思います。

事務局は、町内企業さんの消防活動や体制を掴んでいることはありますか。

(町民安全課 岩崎課長補佐)

企業については、消防署と連絡体制を取っているという状況でありますので、

現在は状況を知るということには至っていません。

(座長：総務部長 社本寛)

消防署と話しをしながら、ここで出た1つの意見として、企業との連携については、一度、事務局で取り組んでいただくこととします。

(参加者 G)

企業は消防設備をそれなりに持っていると思う。ただ、町内企業で消防車を持っているところは無いと思う。

町内にある企業・工場はそれほど広くないので、消火設備や防火槽やホースなどがあれば内部は活動できる。ましてや、外に出ていくということはなと思います。そうした面で、企業の外への活用を期待することはむづかしいと思います。

昼間は、社員も中にいるが、夜間にあった場合は、近隣の人たちに委嘱をして、何かあったら駆けつけてもらう、このような体制を組んでいるのが現状だと思います。

(副町長 大森滋)

消防車はなくても設備はあるということで、皆さんの中で、もし工場で火災が起きた場合、消防設備を取り扱う組織があるという方はありますか。

(参加者 G)

年に1度、丹羽消防からきていただいて防災防火の訓練を実施しています。そのために、若い社員が組織を作り訓練をしています。ポンプや機械は随時出されているので放水もできます。

(副町長 大森滋)

皆さん、お勤めされている方が多いわけで、大口町内にお勤めの方、或は大口町外から勤務されている方などあると思いますが、そういう方たちを消防団員にしたてて組織を再編して、170人を10人程にしたとしても、勤務している時に火事など災害が起きた時に、企業として消防団員を消防活動や救助活動に専念してもらえそうな手立てはありますか。

(参加者 G)

きちんとしたルールにはしていないが、必要に応じて配慮するとした姿勢は示しています。

(副町長 大森滋)

大口町に勤めている方が、大口町で火災があった場合、その方が消防団であれば出動いただいていたという経験がおありということでしょうか。

(参加者 G)

そうだったと思います。私も、当事者でなかったので十分な記憶ではありませんが、配慮はしていました。

これは中小企業的な組織なので出来たことと思います。

(座長：総務部長 社本寛)

実際、企業さんが昼間活動してみえて、町内で何かあった場合、企業の活動を止めて出られるかといえば、むづかしいと思います。ただ、どういう組織を持ってみえて、どう動くかということは、担当部所としてある程度、把握する必要があるのではないかと思いますので、消防署と相談をして状況の把握に努めていくのがよいと思います。

それから、先程、ミドルネームの話がありましたが、以前、消防団のTシャツや車などに「ファイヤーマン」とかありました。

町長からの提案は、イメージ的なところで考えてみるというように受けとめました。また先程、職員が答えましたように、分かりやすいこととイメージの関係もあったりするので、みんなと話しをしながら考えていくという提案であると思いますので、この点についても事務局で検討をお願いします。。

また、女性消防団員さんから、活動拠点の話や、何をやるのかということで、分からないことがあるという話がありましたが、そのあたり、事務局としていかがでしょうか。

(町長 鈴木雅博)

女性消防団の皆さんにお聞きします。何がしたいですか。

(参加者 E)

最初に発足したときは、予防啓発ということで話がありました。操法や、いろいろな経験をさせていただき、消防に対する意欲はあるので、何かやろうかという話しをしましたが、やはり予防啓発としては防火の予防を重視して欲しいと言われました。

予防啓発はしますが、対象が子ども達なのか、誰にやったよいのか分からず、

消防に関しても、わたしたちは火災があっても出ていかない状況です。

女性をどんどん増やしても火災には行かない、またOBの方の参加の話もあり、私たちはこれから何をすればいいのか。火災が起こる前の予防を重視することはいいが、今後、地震が起こるかもしれないといわれる状況のなかで、予防・防火をお願いするといわれると、立ち止まってしまう部分があります。

先程、言いました「かるた」とかを作るのもいいですが、私たちは消防団ではないような気がします。

役場の方は、どう考えているのかが、私たちの意見です。

(地域協働部長 鵜飼嗣孝)

大口町の基本的な考えとして、皆さん、やりたいことは、やりましょうというのが考え方の基本にあります。

今、どんな事をやったらいいかわからないということから、どんなお仕事があるか教えてもらえば、その中から自分たちで出来ることを選択していくというように捉えましたが、それでよろしいですか。

(参加者E)

先程も言われましたが、昼間にいるのは女性が多いと思います。昼間に地震とか起きた時に、何かやれればと話しをしてきましたが、防災の方は後回しにして欲しいといわれたので、かといって、防火のに対しては出動しないというふうなので、それでいいのか・・・という話しです。

(町長 鈴木雅博)

女性の皆さんが、例えば火事があったとしてもその火事の現場に入っていくことは不可能だと思っています。ただ、車の誘導などは、十分、していただけますし、災害が起きた時に自分たちの地域をまとめてもらうことは、いわゆる制服の力が必要であると思っています。

防火・防災含めて、皆さん方が本当に防災について活動を大きくしてもらうことに関して我々ができることはサポートすることで、それをやってくれるなと言って、拒否することは全くありません。

逆に言えば、皆さんが夜警に出ただけでも結構ですし、昼間頼りになるのは、女性と思っているので、もちろん自分の家の安全は確かめてもらって、他の所にも力を貸していただける体制であることを、是非、私のほうからもお願いしたいのが現状であるので、率直な意見をいただければありがたい。

(地域協働部長 鵜飼嗣孝)

火事が起きると、担当が行き、消防団の受付を作る事務局の仕事があります。朝早い時などは、消防団の食事を買に行く仕事もありますが、そういう所を女性の方に助けてもらえばいいなと過去に話していたことがあります。そうした所をどう考えているか団長に確認いたします。

また、拠点という話がありましたが、今、女性については各分団というイメージはなく、町内に一つというイメージを思っているのです。場所を貸すとなると防災倉庫の2階となりますが、これからお話しをする中で、3地域にするとか、またOBの方なり、火を消すこと以外にそれぞれ種類を作るなど色々なパターンが出てくると思います。今回、色々なご意見を頂き色々なパターンを考えられるようになったので、区長さんを始め、自治組織と相談をしながら皆さんを交えてやっていきたいと思えます。

是非、やりたいことがあれば言ってください。また、こちらからお願いをして、出来ないことは出来ないと言ってもらえばいいです。

団長に伺いますが、消防団として、そういうお話しは出ていますか。

(消防団長)

いま、南で女性啓発団ができています。今度、北、西という話があるが、私の希望としては、各学校区でやっていきたい。

最初に南でできたのは、よかったと思っている。この方々がみえたので、啓発活動ができたと思う。当初は慣れないということで、啓発だけにしたいとお願ひしていたが、操法大会などに出場し少しずつ自信が芽生え、当然、活動の中で進化していただければよいと思うので、是非、色々な場面でご協力いただきたい。

(参加者H)

先程から団員が集まらないということで、その原因についての議論がなかなかされていない感じがしました。

私が区長の時、団員の勧誘で何件か回ったことがあります。その際、通勤時間が長いとか、交代制のため出られない、会社を遅刻したり休んだりすると減点対象になるなど社会的背景で許されないという意見が結構あり、こうした社会状況のなかでの勧誘はむづかしいと思えます。

1つの提案であります。大口町は昼間の人口が非常に多い。ということは、企業が沢山あり、企業も同じ住民であります。そこには大口町に住んでいて大

口町にお勤めされている方が沢山おられると思う。

最近、企業の社会貢献・地域貢献がよくいわれるようになり、町からも勤めている方に消防団員を勧誘できるようなシステムがお願いできないかと思えます。そういう人があれば、地域で火災が起きても町内であれば会社も理解してくれると思うし、遅刻したとしても配慮いただけるのではないかと思う。

私が勤めていた会社では、町から消防団員の勧誘が毎年、人事課にきていた。会社の上司が部下の住まいなどを尋ねて勧めていたりした。こうした社会情勢の中では、一人一人に団員の勧誘を働きかけてもむづかしいと思う。

団員の枠を大きくしたらどうかという意見がでましたが、おそらく3年先・4年先にはまた、同じような状況になるのではと思われます。

今日のテーマは、消防団員の確保ということなので、まず、現在の背景を踏まえて団員を確保するための根本的な問題を考えないといけないと思う。

(地域協働部長 鵜飼嗣孝)

企業との連携ということで、今年度、企業さん向けに戸別受信機を配布する予定であります。町民安全課として、初めて企業と関わる機会を得ますので、それにあわせて消防団員の話しをしてみたいと思います。

(座長：総務部長 社本寛)

平成22年の国勢調査によると、大口町は昼間、7,000人位の方が出ていて、17,000人位の方が働きに来ておられる。中夜間人口比率で行くと、飛島村について、第2位という状況であります。

企業活動にも限界があるので、普段から話しをしながら可能な部分を集めて、昔は、団員が昼夜を問わず守っていくという状況でありましたが、昼間に大口町にいる方と、夜、大口町にいる方と、役割分担はむづかしいかもしれませんが、例えば若い方とOBの方と組み合わせを進めていくなかで、地域とのつながりの中で団員確保もできるかもしれないし、地域に理解頂くためにもこうした話し合いの場が必要となってくると思います。

先程、お話しにでていたように、働く状況が複雑になってきているということについても組み合わせながら、今の9分団の体制を考えてみてはとの話をいただきました。それから企業との関係については町民安全課が戸別受信機を配る際に話しをしてみる、また、イメージ的なことについて皆さん取り組んでみませんかということと、女性消防の方が発展的に今後、活動を考えていきたいという意見もありました。

今後も地域のなかで、消防団員の確保というよりも消防団の活動について

意識をもちながら興味を持っていただければと思います。

本日は、ありがとうございます。

(副町長 大森滋)

本日は、長時間にわたり、ありがとうございます。

今、皆さんにいろいろお話しをお伺いする中で、消防団を行政区から小学校区に移行してみてもというお話し、また、OBの活用、また女性消防団員のミッションについて、初めて気持ちを伺うことができました。

先程もお話しをいただきましたが、お勤めされている方が多い中で、昼間や朝の活動がむづかしいというお話しがありました。

そういうことの中で、組織の再編が必要ということもありますが、それと同時にOBの活用、或は、女性団員の気持ちに配慮されるような、活動範囲を広げるようなことも考えながら消防団員の組織のあり方を考えていきたいと思えます。

また、企業との関係でいきますと、町民安全課が戸別受信機を配る際に話しをさせていただくということでしたが、大口町に工業クラブというものがあります。これは大きな企業さんから中小の企業さんまでメンバーに入っておられます。

1年に2度、こうした方々と大口町の課題を話す機会がありますので、そういったところで消防団について話しを取り上げさせていただいて、企業と消防団のあり方について議論を始めていくのもあるのかなと思っております。

本日は、いろんなご示唆をいただきましたので、これからの消防団のあり方の中で検討してまいりたいと思えます。

本日は、ありがとうございます。